

地域

経済

デジタル

医療

福祉

女性
活躍

高齢者

令和6年度 第1回

ふくしまデジタル推進協議会・ デジタル推進者会議

幼稚園

保育

日時：令和6年5月21日（火）10時～

場所：エルティ ウエディング・パーティ エンポリウム
1階スクエア北

先進的
取組

観光

行政

学術

農業

交通

ふくしまデジタル推進協議会・デジタル推進者名簿（出席者 33 名 R6. 5. 21現在）

（敬称略） -2-

分野	No.	所属	協議会会員	出欠	デジタル推進者	出欠
行政	1	福島市	市長 木幡 浩	○	デジタル改革室長 尾形 真一郎	○
経済	2	福島商工会議所	会頭 渡邊 博美	×	総務課 課長 森藤 孝之 （代理：総務課 課長補佐 小坂 剛弘）	○
	3	福島市商店街連合会	会長 小河 日出男	×	青年部 会計幹事 奥田 健	×
地域	4	福島市自治振興協議会連合会	会長 吾妻 雄二	×	希望ヶ丘町会長 岸波 清孝	○
学術（まちづくり）	5	福島大学	地域未来デザインセンター長 鈴木 典夫	○	地域未来デザインセンター特任教授 高際 均	○
学術 （地域連携）	6	福島学院大学	地域マネジメント学科長 浅野 清彦	○	地域マネジメント学科准教授 鈴木 忠雄	○
	7	桜の聖母短期大学	地域連携センター長 岩本 正寛	○	協議会会員と兼務	
医療・福祉	8	福島市医師会	会長 岡野 誠	×	広報情報委員会 委員長 松本 純	○
	9	福島県立医科大学附属病院	医療情報部長 井高 貴之	○	協議会会員と兼務	
	10	福島市地域包括支援センター連絡協議会	会長 斎藤 哲弥	○	監事 樋口 裕子	○
農業	11	J A ふくしま未来	代表理事組合長 数又 清市	×	福島地区 営農経済担当部長 齋藤 信也	×
教育	12	福島市教育委員会	教育長 佐藤 秀美	○	教育研修課 指導主事 吉田 貴史	○
保育	13	福島市私立認可保育施設連合会	会長 山崎 麻弥子	○	副会長 幕田 晋市	○
幼稚園	14	福島市私立幼稚園協会	理事長 齋藤 悟	○	協議会会員と兼務	
交通	15	福島交通(株)	代表取締役社長 武藤 泰典	×	乗合営業課長 八巻 健	○
	16	福島県タクシー協会県北支部	支部長 大村 雅恵	○	—	
観光	17	福島市観光コンベンション協会	会長 坪井 大雄	×	事務局長 横葉 純一 （代理：専務理事 清野 正紀）	○
高齢者	18	福島市シルバー人材センター	理事長 山内 芳夫	○	事務局長 千葉 修	○
女性活躍	19	福島カラー印刷(株)	代表取締役 渡辺 泰子	○	アカウントチームサブリダー 國嶋 邦子	○
デジタル	20	N T T 東日本福島支店	支店長 畠山 良平	○	副支店長 佐藤 武史	○
	21	(株)福島県中央計算センター	代表取締役社長 河原田 浩喜	○	D X 推進部 部長 瀧澤 裕史	○
	22	(株)インフォメーション・ネットワーク福島	代表取締役社長 高橋 信夫	○	システム課 主任 岡崎 俊彦	×
	23	朝日システム(株)	代表取締役社長 成茂 彩生	×	常務取締役 高橋 秀雄	○
先進的取組	24	(株)カトウファーム	専務取締役 加藤 絵美	○	—	
	25	BlueOcean&Company(株)	代表取締役会長 奥本 英樹	×	代表取締役社長 塚本 英樹	○

～ 次 第 ～

1 開 会・オープニング 会長(福島市長) 木幡 浩

2 ディスカッション

(1) 各分野における令和6年度取組

(2) コミットメントからアクションへ

3 その他

4 閉 会

R5.2



電子図書館の運用開始

電子書籍約12,000タイトルが利用可能。**市内全児童・生徒へIDを配布。**読書の推進へ。

R5.4



市役所業務システムの内製化本格スタート

システム内製に組織で取り組む。属人化を防ぎ、部局をまたいでDX。
R5年度実績 **内製システム稼働:46件 削減時間数:3,901時間**

R5.6



映像伝送システム「LIVE119」運用開始

119番通報時に、口頭説明に映像がプラスされることで、傷病者の状況を確認でき、適切な応急手当と通報者の不安低減に寄与。令和5年度実績:**74件**

R5.6



市役所業務で文書生成AIの試用開始

文書生成AIの有効性とリスク対策を検証するため、利活用に関するガイドラインを策定し、安全な運用に向けた試用を開始。アンケート結果:**業務利用にポジティブ**

R5.10



スマート農業実演会開催

果樹生産を中心に様々な用途のスマート農機具を集め、作業の省力化や効率化、生産力向上につながる実演会を開催。

R5.10

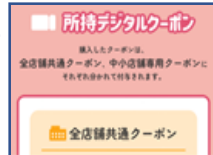


小児科休日当番医でオンライン診療活用を開始

オンラインによる問診、受診の実施で、休日の小児科診療受け入れ態勢を強化。令和5年度は、7日間で**222件**の受診。

R5.11

福島市デジタルクーポン事業開始



全て電子版となるクーポンを全市民に発行。市公式LINEと連携。サポートデスクを設置して**高齢者にも手厚い支援**を実施。

市公式LINE登録者数は市人口の**約27%**に相当(38,827人→75,091人)

R5.11

福島市デジタル化推進フォーラム開催



本市出身の日本デジタル界のトップランナー味澤将宏氏の基調講演とともに市内企業の先進事例を紹介。参加者：**235名**

R5.12

農業バイトアプリ「デイワーク」の登録出張サポート実施



1日農業バイトアプリを活用した農業者の仕事登録を促進し、人手確保を図るため、市内4会場で登録出張サポート。

R6.3

高齢者向けスマホハンドブック公開



ふくしまデジタルサポートデスクの経験を活かし作成。高齢者に伝わりやすい言葉を用い、見やすく・読みやすく工夫。**シルバー人材センターICT班と連携!!**

R6.4

「福島市子育てアプリえがお」機能拡充を発表



アプリ上で健診予約や妊娠届出書提出・母子手帳交付と面談の予約を可能とし、母子保健のデジタル化へ。アプリ登録者数：**5,286名**

R6.4

高齢者施設におけるオンライン診療導入



オンライン診療を利用することで軽症者の救急搬送を減らし、救急車の適正利用を実現できるか検証。

福島市のデジタル推進体制について

赤文字が新設

-6-

官民連携による各分野・地域
全体のデジタル化の推進

ふくしまデジタル推進協議会

- 市、団体、企業、大学等16分野の代表者等で構成
- 会員数:25名
- 会長:福島市長
- 副会長:福島商工会議所会頭

デジタル推進者会議

- 協議会の「実行組織」
- 構成団体から選出された「デジタル推進者」で構成
- 会員数:23名

市長

福島市DX推進本部

CDO(Chief Digital Officer)
ー最高デジタル責任者ー

副市長

副CDO

(副 Chief Digital Officer)

CDO補佐

ー最高デジタル責任者補佐ー

情報セキュリティ

副市長

CISO

(Chief Information Security Officer)
ー最高情報セキュリティ責任者ー

- ・情報セキュリティを統括。
- ・「CISO」は福島市情報セキュリティポリシーで明記された役職であり、情報セキュリティを統括する役職。

CSIRT

(Computer Security Incident Response Team)

- ・CSIRT責任者 政策調整部長
- ・CSIRT副責任者 デジタル改革室長
- ・CSIRT管理者 情報企画課長
- ・インシデントハンドラー システム管理係長

情報セキュリティポリシー

- ・統括情報セキュリティ責任者 政策調整部長
- ・情報セキュリティ責任者 各部長
- ・情報セキュリティ管理者 各所属長(各課長)
- ・情報システム管理者 各情報システムの担当等

デジタル政策監

統括DX推進責任者

- ・情報施策を統括。DX推進の専任部長として、庁外・庁内のデジタル化、DX化を部局横断的に施策レベルに落とし込み実行。

デジタル改革室長

- ・統括DX推進責任者を補佐するとともに、庁内・庁外のデジタル改革を連携

デジタル推進課長

主に庁外、地域のデジタル化、DX化を推進

■デジタル推進協議会事務局

情報企画課長

主に庁内、市内部のデジタル化、DX化を推進

- インソーシングチーム
- ・主任DX推進員(内製担当)
- ・DX推進リーダー

DX・BPR推進
システム内製
EDAに基づく外注
DX関連研修

各部DX推進体制

各部長

部DX推進責任者

- ・所管業務・部内デジタル化、DX化の推進、執行を統括。

各次長

部DX推進責任者補佐

課長等

課(所)DX責任者

- ・所管業務・所属内デジタル化、DXの推進、執行を統括。
- ・併せて、各課等のBPRを推進。

担当者

DX推進員

- ・所管業務、各課等のデジタル化、DX化をを先導

行財政改革推進本部

改革推進
(X-formation)

各次長

行財政改革推進本部幹事

- ・かえるチャレンジ
- ・BPR推進 (改革マインドの醸成)

担当者

DX推進WG

- ・情報システムの標準化、ガバメントクラウド対応
- ・行政手続のオンライン化
- ・窓口DX(書かない窓口)

【福島市の新たなDX推進体制構築の考え方】

- コロナ禍による社会情勢の変化、テクノロジーの急激な進歩への対応が必要
- これまでの紙や伝票、FAXなどのアナログ情報を前提とした考え方から、単なる「デジタル化した」に留まるのではなく、デジタルを前提とした変革の考え方にシフトさせていく。
- DXの取組にあたっては行政だけでなく、ふくしまデジタル推進協議会、デジタル推進者会議や本市の事業の一翼を担う指定管理者、外郭団体と一体となって推進していくとともに、関係機関や企業など多様なステークホルダーとの連携により、新たな社会を共創していく考えのもとで、デジタル化を促す取組を進めていく。



市長をCDO(最高デジタル責任者)として時代に即したDX体制に見直すとともに、デジタル化の恩恵を全ての市民が享受できるよう「高齢者にもやさしいデジタル化」を推進することを大前提としつつ

- (1) 既成概念にとらわれないデジタル化の推進
- (2) デジタルファーストの視点
- (3) 市のデジタル化のエンジンとしての市役所改革を進めていく。

2 (1) 各分野における令和6年度取組について

- 各団体・企業等における令和5年度までの取組及び令和6年度取組については、「分野毎個別に取り組む推進項目等」(8～14頁)に記載のとおり。
- 推進項目等に基づく令和6年度取組を中心に協議会員様からご報告願います。

分野毎個別に取り組む推進項目等

○デジタル推進者会議の各メンバーより提出いただいた分野毎個別に取り組む「推進項目」の内容等を整理したもの

No.	企業・団体名	現状と課題	推進項目等	令和5年度までの取組	令和6年度取組
1	福島市商工会議所	- 当所で決算申告支援をする個人事業者の約7割が経理を手書きで行っている状況。 - 会計ソフトの導入やクラウド化を進める必要がある。	会員事業者向けのパソコン教室やインターネット活用セミナー等の開催。	- 会員事業者向けのパソコン教室やインターネット活用セミナー等を継続して開催。 ○R5年度WEBセミナー 視聴回数5,053回 視聴セミナー数1,234本 視聴者数2,312名	会員事業者向けのパソコン教室やインターネット活用セミナー等を継続して開催。
2	福島市商店街連合会	- 年配の方のデジタル化への意識改革が必要。 - キャッシュレス化が進んでいない。 - SNSやWebサイト等を活用した情報発信が出来ていない。	- 年配の方へのサポート体制の構築。 - キャッシュレス化導入率アップ - デジタルによる情報発信と情報発信スキルの向上	- 先導的プロジェクト開発分科会の商業分野への議論に参加。 - webサイトを定期的に更新、SNSにて日常的な情報発信を実施した。 - 会員向けの情報共有をSNSを通じて実施した。 - 商工会議所主催のパソコン教室に参加いただき、情報発信スキルの向上を図った。	- 年配の方へのサポート体制の構築。 - キャッシュレス化導入率アップ - デジタルによる情報発信と情報発信スキルの向上
3	福島市自治振興協議会連合会	町内会会員間の情報格差がある状況での情報伝達とデジタルとアナログの共存をいかに進めていくかが課題。	各町内会及び会員のデジタルへの理解度向上。	- 電子町内会の普及実績は、令和5年度40町会(約5%)で微増。 「高齢者スマートフォン利活用講座」への参加実績 ○令和6年度 713人参加 121回実施	- 電子町内会活動におけるDX取り組みの啓発活動の推進。(町内会執行部の意識改革も含む) - 町内会会員のスマホ普及率とSNSアプリ等のプラットフォームの現状分析を実施した上で、今後の取り組みを協議する。 - 自治振興協議会内のDX推進の実務者会議を設置等。

No.	企業・団体名	現状と課題	推進項目等	令和5年度までの取組	令和6年度の取組 -9-
4	福島大学	- 高齢者の理解をいかに深め、高めていくかが地域の課題。 - デジタル化を活用して、より付加価値の高い産業として回していくかが行政課題。	- 産業競争力の強化、豊かな地域づくりの観点からのDX。 - 例えば、中小企業の事業開発、起業家育成、企業の生産性向上、デジタル人材の確保等。	- 起業活動支援プログラム「みちのくイノベーションキャンプinいわき」（大学生対象）の実施 - アントレプレナーシップ人材育成プログラム「社会課題「自分ゴト化」プロジェクト」（高校生対象）の実施 - スマート化/コンパクト化担当教員、起業/事業開発担当教員の配置 - 企業訪問・出前相談 等	- アントレプレナーシップ人材育成教育プログラムの実施 - スタートアップ/起業支援のためのGAPファンド獲得案件の発掘 - 学類・大学院でのアントレプレナーシップ教育プログラムの体系化 - スマート化/コンパクト化研究プロジェクトの起案
5	福島学院大学	- 書類文化、ハンコ文化を見直し、必要最低限にする必要がある。 - 活発な議論を伴わない会議の是正。	従来のデジタルリテラシー教育のみならず、DXの本質を理解している学生の育成と従来のやり方から変えることのできる学生の育成。	- 問題解決のためのワークフロー構築に必要となるDX化の理解を深める。 - 円滑で有効な事業展開を支えるためのマネジメント能力の育成。	- 現場のビジネスにおいて様々な課題解決に必要となるDX化をより強力に推進できるITスキルの育成。 - フィールドワークや地域貢献活動を通して得られる実際に活用されているDXの理解促進
6	桜の聖母短期大学	地域に貢献できる人材の育成。	大学で学んだ学びがそのまま業務に活かせるような人材の育成。	- BYODの推進。 - 授業科目「情報演習」を通じたデジタル人材の育成。 - 学習成果に係る生成AIの使用と対応方針を制定、生成AIに依存するのではなく、ツールとして正しく使える人材育成を実施。	左記の継続。
7	福島市医師会	- コンピューターウイルス、サイバー攻撃等へのセキュリティ対策が大事。デジタル推進のためには利便性とともな安全性について対策をとる必要がある。 - オンライン資格確認の課題とともに個人情報保護とセキュリティの問題が重要。	マイナンバーカード取得の広がりに注目しながら必要な対策をとっていく。 ○参考 マイナンバーカード交付率 (R6.4月末) 国：79.0% 福島市：80.3%	「県北医療情報システムサイバーセキュリティ相談会」を開始 - 福島市夜間急病診療所での電子カルテ導入 - オンライン資格確認の問題、要介護者・高齢者・障がい者の支援	- 令和6年12月2日予定とされている健康保険証の発行終了への対策 - マイナンバーカードの普及の広がり国民的理解を注視する - 医療DXでは誰一人取り残さず住民の不安や不信を招かないように
8	福島県立医科大学 附属病院	オンライン資格確認とマイナンバーカードの保険証利用、電子処方箋の普及が課題。	患者の効率・効果的な受診に資するデジタル化。	マイナ保険証の利用促進に向けてポスター掲示に加えて全ての診療ケースに案内一枚紙の挟み込みを実施。 各科受付のオンライン資格確認端末・顔認証付きカードリーダーを増設し、合計30台を設置（～4月末） 電子処方箋については、ベース機能を構築済み（～4月末）。	引き続き、マイナ保険証の利用促進を図るとともに、電子処方箋の追加機能の実装と、院内で医師のHPKIカード取得・確認等の運用整理を進める予定。 医療情報基盤と自治体・保健所の情報基盤を連携するPublic Medical Hubの先行実施事業（公費助成情報・予防接種・母子保健）の状況も踏まえつつ、キビタン健康ネットの活用含め、DX検討を進める。

No.	企業・団体名	現状と課題	推進項目等	令和5年度までの取組	令和6年度の取組
9	福島市地域包括支援センター 連絡協議会	- 情報共有やコミュニケーションを図る上で、対面とオンラインをバランスよく使い分ける必要がある。 - 支援者側も高齢者側もまだまだデジタルに苦手意識がある。	高齢者がデジタルを活用できるよう各地域や団体でスマホ教室の開催。	- デジタル活用出前講座の開催（市内2か所） - 福島市が開催するスマートフォン利活用支援講座の周知、案内	- 福島市が開催する各種講座の周知、案内 - 福島市政出前講座等の活用等により高齢者のデジタル活用を支援する。
10	ふくしま未来農業協同組合	高齢者の組合員は、デジタル化についていけない部分がある。	高齢者組合員を対象としたスマホ教室などを幅広く開催。	- 女性部組織を中心にスマホ教室開催（1か所） - ほぼ管内で終了し、現在グループLINEを形成し活用している。	引き続き、女性部組織以外に対しての開催。
11	福島市教育委員会	- 授業におけるタブレット端末の活用は進んでいるものの、協働作業や他者参照等、クラウド環境だからこそその活用方法ではなく、提示や記録のための活用にとどまっている教員もいる - MDMやアプリの更新作業等に関する学校・教育委員会の負担が大きい	- 教職員のクラウドを活用した授業改善や校務改善 - NEXTGIGAに向けた端末の更新およびクラウドを活用しやすくするための環境整備	- より活用を進めてほしい学校へ指導主事が訪問し、管理職・ICT推進員と面談を行った - chatを活用し、各校のICT推進員の困り感や研修情報、活用例等の共有した - 学校のICT支援を行うICT支援員への研修を実施した	- 訪問研修や参加型の研修だけでなく、オンライン研修、オンデマンド研修により、いつでもどこでも学べる仕組づくり - 校務や授業研究でクラウドの活用を促す研修や生成AI研修等、ニーズに応じた研修の追加 - 教職員が校務や授業でクラウドを活用することができるための広報及び環境整備
12	福島市私立認可保育施設連合会	子どもたちにどんな風にデジタル化を教えていくかが大事。	保育現場のICT化等は始まったばかり。各分野の取組を参考としながらデジタル化を進めていく。	関連委員と小グループ会議をもち、DX化にむけたターゲットの明確化および活用できそうなツールやシステムの洗い出しを行う。	これまでの取り組みから、さらに具体化を進めたい。
13	福島市私立幼稚園協会	幼稚園協会、幼稚園側として、子どもや保護者、教員など、どこに焦点をあててデジタル化の取組を進めていくかを考えている状況。	日本一子育てしやすい市を目指し、乳児・幼児・児童・生徒・学生に係る組織と連携しながら進めていく。	各園では、さまざまな業者のアプリを取り入れて活用はしている。利用状況としては、園と保護者とのやり取りがほとんど。また、協会で統一した取り組みは、福島市私立幼稚園協会のホームページのみが現状。	教員の仕事の負担を減らすためITを利用し、要録や記録などを紙媒体からデジタルへ移行を進める。

No.	企業・団体名	現状と課題	推進項目等	令和5年度までの取組	令和6年度までの取組
14	福島交通㈱ 福島支社	・人口減少に伴う郊外部の公共交通維持が課題。	・利便性の高いＩＣカード（ＮＯＲＵＣＡ）、ＶＩＳＡタッチ、バスロケーションシステムの高齢者利用の推進。 ・デジタル化による業務の効率化推進。	・ＩＣカードＮＯＲＵＣＡにおける、各種決済システムの構築については完了。Ｒ６年度に向けて実施する予定。 高齢者のバスロケ利用については乗り方教室を開催し周知した。 ・社内のバス運行及び勤労のシステムについて構築し効率化を図った。	・ＩＣカードＮＯＲＵＣＡの各種決済システムの実施及び、引き続き乗り方教室における高齢者への周知を図る。
15	福島県タクシー協会県北支部	・市内のタクシー会社間でデジタル化への対応の差があるのが課題。	・デジタル化、アプリ配車、キャッシュレス決済対応、安全性を担保するための機器導入等に業界全体として努力していく。	令和5年度は支部会員に対しキャッシュレス決済の導入を啓発し結果として一部の個人タクシーを除き、何らかのキャッシュレス決済ができるようになった。アプリ配車はコストもかかることから、2社のみの導入に留まっている。	令和6年度も引き続きキャッシュレス決済の内容の充実（特にクレジットカード・電子マネー・交通系ＩＣ）を啓発していく。
16	福島市観光コンベンション協会	・市内事業者はデジタル化に抵抗のある方が多く、情報伝達手段はＦＡＸや電話が多い。	・ＩＴ、女性視点を取り入れた効率的な誘客方法を進めていくためデジタルマーケティングやＳＮＳ等を使った情報発信のスキル提供。	・GoogleBusinessProfileの活用セミナー開催（2回） ・各種キャンペーン開催時の連携事業者間連絡時のLINEの活用 ・当協会からの連絡手段全般の電磁的（Email等）手段の推進 ・アンケートデータや各種事業数値のダッシュボード化によるリアルタイムでの情報共有の推進	・GoogleBusinessProfileセミナー開催 ・連絡手段のデジタル化推進 ・宿泊施設におけるDX推進（観光庁事業連動） ・PMS連携による宿泊データ等の共有可視化推進
17	福島市シルバー人材センター	・会員等のＩＣＴスキルや知識の向上を図る必要がある。	・情報発信や情報検索のスキルアップやLINEを含むメール等の活用方法など会員のＩＣＴスキルの向上。 ・ＩＣＴに詳しい会員で構成する「ＩＣＴ班」の新設とＩＣＴ関連業務の受注。 ・センター内部の業務効率化のためのセンター職員のスキルアップ。 ⇒全国的にも珍しい取組として高い専門性を目指す会員でつくる職能班に「ＩＣＴ班」を新設し、Ｒ４．９月に活動をスタート。 構成メンバー：６５～８０歳の会員２２人。	・会員のＩＣＴスキルの向上 ①パソコン教室（中央計算センター様と連携）全7回、64名参加 ②スマートフォン講習（ドコモ様と連携）全5回、63名参加 ・ＩＣＴ関連業務の受注（福島市からの委託） ①ふくしまデジタルサポートデスク相談業務 ②高齢者向けデジタル活用事例集作成業務 ③デイワーク登録出張サポート業務	・会員のＩＣＴスキルの向上各種講習を随時開催予定 ・ＩＣＴ関連業務の受注（福島市からの委託） ①ふくしまデジタルサポートデスク相談業務 ②スマホハンドブックセミナー事業業務 ・センター職員のスキルアップ

No.	企業・団体名	現状と課題	推進項目等	令和5年度までの取組	令和6年度までの取組
18	福島カラー印刷(株)	・テレワークの推進に取り組んだことで、子育てや介護等をしながら、収入面で大きく下がることなく活躍できる働き方の仕組みができていく状況。	・女性だけでなく誰もが活躍できるような働き方の推進。	・育児や介護など私生活の変化による、キャリアパスの再設計に柔軟に対応する仕組みの構築	・社外のワーカーさんとの協働による仕事創造の仕組みを新たに構築 ・長期的な人材の確保と育成
19	NTT東日本福島支店	・地域の活性化や持続的な地域の発展に繋がるようなデジタル化を推進する必要がある。	・データを共有し、相互利用することでデータ自体の付加価値を高めていけるようなデジタル化の推進。	福島市内の団体・企業と連携した「デジタル化の推進に向けた啓発活動」や「デジタル技術活用の実践」を通じてデジタル化を推進した。 ○デジタル技術活用の実践 ・駅前通りイベントの人流データ収集・分析と施策提言（5月～8月） [ふくしま情熱通り委員会様と連携] ・ふくしま SDGs 未来博において未来電話ボックス（仮称）をコンセプト出展（1/20～21）[Blue Ocean & Company (株)様と連携] ・完全閉鎖循環式陸上養殖の実証実験と試験販売 （7/20）[事業主体：㈱いちい様] ・デジタル技術を活用した防災実働訓練の開催（5/24）[福島市様等と連携] ・「信夫山のゆず」のドローンによる収穫支援（11/17、雨天のためドローン活用は中止）[福島学院大学様と連携] ・ふくしま駅伝におけるレース進行状況のリアルタイム把握で運営をサポート（11/19） ・コネクト大町へのスマートストア設置（2/17） ○デジタル化の推進に向けた啓発活動 ・「伝統工芸品×デジタル」による新しい価値を創る学生と企業が共同で学びあうワークショップを開催。（3/22、10/24）[主催：福島学院大学様×NTT東日本、ゲスト：㈱カトウファーム様・Blue Ocean & Company (株)様] ・「サイバーリスク対策×企業デジタル化セミナー」を開催。（2/20）[福島県警様等と連携]	・様々な団体・企業と連携しながら、データの共有と相互利用により「データ自体の付加価値」を高めていけるようなデジタル化を引き続き推進していく。

No.	企業・団体名	現状と課題	推進項目等	令和5年度までの取組	令和6年度までの取組
20	㈱福島県中央 計算センター	・65歳以上の高齢者は他の世代と比較し、デジタル機器に触れたり、学ぶ機会が少なく、使いたいけど不安と感じる方も多いことから、利用することができるような対策が必要。	・高齢者の情報リテラシー向上を図り、デジタル化の底上げに繋がる取組のサポート。	・シルバー人材センター会員様向けパソコン教室 10/3、10/5、11/7、11/9 ・デジタルサポートデスク（毎週月曜日、金曜日） 4/10～3/29 ・予約コールセンター ・サポート窓口対応 ・情報モラル授業 7/5（飯坂小学校）、 7/19（第三小学校） ※ブルーオーシャン様の「タイムポケット」アプリを活用した小学校連携事業の一部）	・デジタルサポートデスク（毎週金曜日） 4/1～3/28 ・予約コールセンター ・サポート窓口
21	㈱インフォメーション・ネットワーク福島	・地理的制約や経済的な要因でデジタル利用ができない方を意識しながらデジタル化をいかに進めていくかが重要。	・市民へデジタル化の便利さや重要性を広げる取組の推進。 ・デジタル推進協議会会員の課題解決サポート。	自治体と連携した公共施設予約システムの拡大、マイナンバーカードの普及、電子図書館のサポートなどを行った。 推進協議会での課題解決をはじめ地域企業・団体等の相談に応じた。	自治体と連携し、複数自治体が連携した公共施設予約システムの運用拡大などでデジタル化を推進する。 引き続き、推進協議会での課題解決を図るほか、企業・団体、市民等をサポートする。
22	朝日システム㈱	・ベンダーの働き方や役割も大きく変化し、得意技と行動力を持ったベンチャーが台頭してくる世の中となっている。	・昨年立ち上げたイノベーション部門を中心に地域のDXをサポート。 ・クラウドサービスの活用が急速に広がっていることに危機感を持ってデジタル化を推進していく。	・各種ツールの比較・検証とともに利用シーンに応じた提案、試行 ⇒ ノーコードツールによる社内業務の置換検証、類似のSNSサイト構築のスピード感、費用対効果の検証 ・地域課題解決へ向けたヒアリングマッチングなど ⇒ 町内会、まちづくり協議会、学生サークルなど 町内会 会計クラウド化、活動等のSNS公開	・地域課題解決へ向けた課題分析 ⇒ デジタル化の支援 ・施設園芸を中心としたスマート農業の試行
23	㈱カトウファーム	・農業分野は「紙」の手続きが変わらず非常に多い。	・これまで取り組んできたオンライン販売、HP作成、営農支援ツール「アグリノート」、e-Taxに加え、SNSにも力を入れる。	オンライン販売、HP作成、営農支援ツール「アグリノート」及びe-Taxの利用、SNSによる情報発信に取り組むことができた。	同項目を引き続き力を入れて、自社店舗やイベント等のキャッシュレス化を進めて行きます。

No.	企業・団体名	現状と課題	推進項目等	令和5年度までの取組	令和6年度までの取組
24	Blue Ocean & Company ㈱	人間のよさ、人間のパワーがあってデジタルが圧倒的に良くなる。弊社が取り組んでいる仕組みはデジタルとアナログの融合。人生がデジタルによっていかに豊かになるかを実現することが重要。	効率化のDXと新しい付加価値をつくるDXを両輪で進めることにより、多くの市民が豊かな地域社会を実感してもらえるようなフィールドをつくる。	- モデル校2校(福島第三小学校、飯坂小学校)の小学6年生を対象に友達、家族へ普段伝えられない大切な思い、感謝の気持ちをデジタルメッセージ(デジタルタイムカプセル「タイムポケット」)として未来の特定な日時に届ける授業を実施いたしました。 - また福島交通株式会社飯坂線沿線を舞台に福島大学経済経営学類奥本ゼミ二年生と連携しARデジタルウォークラリー飯坂伝説「藤太の冒険」を地域活性化の取り組みとして開催いたしました。 - NTT東日本福島支店と「ふくしまSDGs未来博」にて廃棄された公衆電話機を活用し電話機にあまり触れることの少ない子供たちを対象に未来へ「エール」を送る楽しみに触れることができる「未来電話ボックス(仮称)」を展示し体験してもらいました。	福島市中学校2校(福島第一中学校、松陵中学校)にて生徒自らがデジタルタイムカプセル(タイムポケット)を活用し、未来に向け「エールをおくる」地域や人々が楽しみ、役立つコンテンツ(デジタルクラフト)を製作する授業を行う予定(発想力、探究心の育成)。

2 (2) コミットメントからアクションへ

- デジタル化は、各分野の持続可能性を高め、市の未来を切り開く鍵になります。
令和4年度は、各分野トップと方向性をコミット。
令和5年度は、各分野で取組開始。
令和6年度に、市全体のデジタル化のアクションへ！

① マイクロソフト Teams の活用について ・令和4年10月26日から

The screenshot displays the Microsoft Teams interface. On the left, the 'チーム' (Team) sidebar shows a list of channels. The main area is split into two views:

- Top View (Channel: 02.デジタル推進者会議):**
 - Header: 02.デジタル推進者会議 | 投稿 | ファイル
 - Message 1: From 福島市 (23/8/29 10:55), titled '令和5年度第1回デジタル推進者会議資料'. It lists three PDF files: '1.次第.pdf', '2.健康分野の取り組み状況20230829.pdf', and '3.福島市デジタル推進・未来シナリオ分科会20230829.pdf'. Below the list are three file thumbnails with names like 'msteams_80bb9a > 02.デジタル推...'.
 - Message 2: From 福島市 (23/8/23 17:09), titled '令和5年度 第1回 デジタル推進者会議'. It includes a calendar icon, the date '2023年8月29日 火曜日 15:30', and a '参加' (Join) button.
- Bottom View (Channel: 99.利用マニュアル):**
 - Header: 99.利用マニュアル | 投稿 | ファイル
 - Message: From 福島市 (22/10/24 17:23), text says '10月21日付けで送付しました「マイクロソフトTeams利用マニュアル」を共有します。' (We have shared the 'Microsoft Teams Usage Manual' sent on October 21st). Below the text are two file thumbnails: '(PDF版) マイクロソフトTeams利用マニユ...' and '(パワーポイント版) マイクロソフトTeams利...'.

〈参考〉 前回開催以降の活動経過について

-16-

日時	会議等名	場所等	内容
R4.11.30 (水)	デジタル推進協議会 (令和4年度 第2回)	エルティ	福島市デジタル都市宣言、推進項目等
R4.12.1 (木)	福島市デジタル人材 バンク設置	—	福島市内で活躍したい思いを持つデジタル人材の申込受付を開始 (登録者数 55名、マッチング成立件数 8件(R6.3時点))
R4.12.14 (水)	ふくしまデジタル サポートデスク開設	市役所本庁・ アオウゼ	デジタル活用に不慣れな方向けの相談窓口を開設 (R4.12~R6.4までの延べ利用者数：693名)
R5.3.22 (水)	会員間マッチング事業 (ワークショップ開催)	CONNECT OMACHI	地域のみなさまと連携した地域活性化への新たな取り組みについて考えるワークショップの開催
R5.5.29 (月) ~R6.3.4 (月)	会員間マッチング事業 (「タイムポケット」を活用した 授業)	福島第三小学校・ 飯坂小学校	小学校の1人1台学習用タブレット端末を活用して、デジタル版タイムカプセル「タイムポケット」アプリを体験し、小学生にデジタルの楽しさや便利さを実感してもらう取組
R5.7.1 (火)	分科会設置	—	未来シナリオ分科会の設置、検討開始
R5.8.29 (火)	デジタル推進者会議 (令和5年度 第1回)	市役所庁議室 ※一部オンライン 参加	各分科会における取組状況の報告等 ・先導的プロジェクト開発分科会（健康分野） ・未来シナリオ分科会
R5.10.3 (火) ~R5.11.9 (木)	会員間マッチング事業 (シルバー人材センター 会員向けパソコン教室)	福島市シルバー 人材センター	国の「シルバー会員のデジタル利用促進事業」を利用し、パソコン等のデジタル機器の操作に不慣れな会員向けにパソコン教室を開催。

日時	会議等名	場所等	内容
R 5. 1 0. 2 6 (木)	会員間マッチング事業 (ワークショップ開催)	CONNECT OMACHI	伝統工芸品とデジタルの組合せによる新しい価値の創造について考えるワークショップの開催
R 5. 1 1. 1 5 (水) ～R 6. 1 2. 1 5 (金)	会員間マッチング事業 (「タイムポケット」を活用した ウォークラリー)	市内各所	飯坂線沿線を舞台に、「タイムポケット」アプリを活用した謎解きウォークラリーを開催
R 5. 1 1. 1 7 (金)	会員間マッチング事業 (「信夫山のゆず」復活 プロジェクトへの協力)	信夫山	信夫山のゆず農家の高齢化や高齢者不足、高所の実の収穫の安全性確保に向け、デジタル技術を活用した収穫作業を支援
R 6. 1. 2 0 (土) ～R 6. 1. 2 1 (日)	会員間マッチング事業 (「未来電話ボックス」 コンセプト出展)	ビッグパレット ふくしま (郡山市)	ふくしまSDGs未来博にて「未来電話ボックス」をコンセプト出展